



平成16年度を振り返って

会長 中田 秀雄

本年度も皆様の暖かいご支援とご協力を賜り、年度末を迎えることができました、ここに厚く御礼申し上げます。
 顧みますと、今年度は例年に比べて色々なことがありましたが、特記すべきこととしては、会員数が年度始の100に比べて150に飛躍的な増加がありました。新会員の中には貴重な海外経験者も多く含まれ、又ホームページを通して増加して来ています。その他、「国際交流フェスタ2004のだ」と手賀の丘少年自然の家まつりの「国際交流のつどい2004」では日本語教室の外国人学習者の積極的な参加があり感銘を受けました。又韓国ブームに引かれ、韓国語講座(外国語講座の再開)とキムチ料理教室も大変応募者が多く、そして教育委員会のご支援もあり小学校の国際理解教育の内容も充実しつつ誠に喜ばしいことでした。

その他、新しい活動としては、顧問制度の導入、Welcome to Noda 冊子の翻訳への協力、モンゴル国会議員との友好都市やモンゴル児童支援に関する打合わせ、年末もちつき大会の「グラフ野田」誌及び(財)地域活性センターの情報誌「地域づくり」への紹介、市立小中学校校長会に於ける国際理解教育に関する説明、中央公民館の人権講座への外国人講師招請協力、お雑煮交流への初参加などがありました。そして昨年3月にはホームページを通して申し込まれた米国高校生のホームステイが今年3月20日にAYUSA Studentとして今年4月1日より日本に約1年間派遣されることに決まりました。これは千葉県及び東京都内の国際交流協会、都内高校や大学の支援及び会員の協力を得ながら本人とも頻りにインターネットを活用して実現できた新しい形の国際交流と言えます。

この様に様々なことがあった1年でしたが、一方ではいくつかの問題点(理事制度の導入と機能化、事業や各部門のあり方、会員等の特技を生かせる組織作り、他団体・企業との交流・協働)がありますので、これらをこれからの課題として皆様と一緒に考え改善して行きたいと思っております。

21世紀に入り世界情勢は様変わりが始まりました。国内でもバブル崩壊後の古いシステムからの脱却など社会・経済の大きな変化の「うねり」が我々の身の回りに押し寄せてきています。

我々の活動は「在住外国人の支援」「市民の国際化」を2本柱として、草の根運動を基本にしながらも、長期的視野に立ち社会情勢の変化に如何に対応して行くかが大きな課題であろうと考えています。

新年度においても、皆様の一層のご支援とご協力をお願い致します。

月/日 活動内容

- 4/25 総会：事業計画・予算・役員決定(市役所)
 講演会：総会終了後 バヤルフ・シャタラ氏
 (モンゴル)の母国の実情についての講演



月/日 活動内容

- 5/23 バスハイク：行き先を知らせないミステリーなバスハイク。41名参加。結局、行った先は、西部防災センター、戸定歴史館など



- 6/31 機関紙「ファンファーレ18号」発行

- 7/17 日本語講習会：スタッフのレベルアップ講習会。
 講師 田中 よね 先生
 (スリーエーネットワーク社)
 33名受講(市役所)

月/日 活動内容

7/18 料理教室：南米の家庭料理（トルージャ・他）
講師 ルセロ バルガスさん（コロンビア）
25名受講（東部公民館）



8/7・8 ホームステイ：ウズベキスタン、中国、韓国
からの留学生7名が一般家族でステイ



8/7 七夕まつり：のだ夏まつり踊り七夕へ出場。
ホームステイ中の留学生も含め総勢30名



8/11 国際交流フェスタ実行委員会：初会合

月/日 活動内容

8/31 モンゴルとの友好：モンゴル国会議員と会談
絵画をいただく（高輪プリンスホテル）



10/3 写真展：市民ふれあいハート祭りに出展
（中央公民館）

10/16 入会パンフレット：
外国語版（6か国語）完成

10/17 国際交流フェスタ2004のだ：写真展、日本語スピーチ発表会、各国のお国自慢コーナー、ステージショー（演奏、歌、踊り）、200名入場（市役所）



副会長・語学学習部長 松村 芳郎

平成16年度は、当協会にとって、外国人市民への支援、日本人市民の国際感覚の向上を本来使命とする協会の基本理念を、より具体的に推進すべき年と認識していました。

外国の皆さんへの支援には、こちらからお仕着せの支援策を利用して貰うだけではなく、皆さんが自主的に企画し提案が出来る環境の提供が必要です。それらを、少しずつでも実現して貰うために、協会スタッフが協力して成果を上げる事が本当の意味での支援と言えましょう。

昨年秋の「国際交流フェスタ2004のだ」では、新たな試みとして「お国自慢コーナー」の展示企画を各国の方々から立案して貰い、日本人スタッフがこれを支援する形を取りました。来場された市民と自国紹介で交流、ステージで大奮闘した皆さんも含め、目を輝かせて喜んで下さいました。今後共この形をフェスタのみならず、他の企画にも適用し、真の支援に結び付けたいと思います。

また、日本人向け支援策として、昨年秋、語学学習部に韓国語講座を新設しました。韓国語ネイティブの講師を囲み、言葉だけでなく、文化を知る事にも軸足を置いた内容で、日韓交流の足掛かりが出来ました。

新年度も以上を生かし、諸策を推進して参りたいと考えておりますので、宜しくご協力を下さいますよう、お願い申し上げます。



10/20 韓国語講座：入門コース開講。1回/週。
6か月間、受講者23名（NPOセンター）



11/5 国際理解教育：南部小学校ワールド集会。
全校生901名対象、講師11か国15名



11/14 手賀の丘自然の家まつり（国際交流のつどい）
協会から写真展・モンゴル展・タイ国売店
ステージ（演奏・歌・踊り）を出す。



12/19 もちつき大会：参加者38名（北部公民館）



12/31 機関紙「ファンファーレ19号」発行

副会長・友好交流部長 小川 好江

今年度は、新しい活動の試みや、モンゴルの国会議員から感謝として絵画をいただくなど、それなりの成果をあげた反面、小中学校への国際理解教育は学校側の事情により、当初目標の校数を実施するには至りませんでした。

① 新しい活動の試み

二つの新しいことを試みました。

一つは、総会後に外国人による「ミニ講演会」を開いたことです。

講師には、ロシアや日本での教育経験のあるモンゴル国のバヤルフ・シャワラ氏をお招きしました。

もう一つは、ちば国際コンベンションビューロ主催の「お雑煮交流（正月に外国人留学生を自宅に招き交流をはかる）」行事に初参加したことです。

これらは、今後も継続させたい活動と考えています。

② 小中学校への国際理解教育

8回目を迎えた南部小学校の国際理解教育は、全校生を対象として、外国人講師11か国15名を招き、例年通り壮大な授業となりました。

また、七光台小学校では、6年生のみを対象に、講師も4か国4名に絞込み、内容の濃い授業を行うことができました。この七光台小での取り組み方は、国際理解教育のあり方として、一つの方向性を示すものとなりました。

しかしながら、今年度は、この2校のみの実施に終わったことは残念です。

小中校長会の席での私たちの国際理解教育についてのアピールにもかかわらず学校側としては、学期制の変更や学力低下問題が主要課題であり、国際理解教育まで手をのばせないとの事情があったようです。

③ ホームステイ

海外からの留学生のホームステイ受入事業は、一般市民の協力を得て、成功裡に終り、今回で4回目と、定着した活動となりました。

以上、主な活動内容を振り返りましたが、今後の取り組みとして、協会のスタッフの充実をはかることは勿論のこと、協会外の人たちの協力体制（ホームステイ受け入れ家族などをベースにした協力者の登録制度）作りを行って、より多くの人たちの力を有効に活用できる組織にしたいと思っています。

月/日 活動内容

1/2 お雑煮交流：台湾からの留学生を招く
(中田家)



1/23 キムチ教室 (1)：キムチ作り、
講師 笠井 白水 さん
32名受講 (南部梅郷公民館)



2/6 キムチ教室 (2)：応募多数のため、
2回目開く、19名受講

2/17 国際理解教育：七光台小学校ワールド集会
6年生80名対象、講師4か国4名



3/12 日本語講習会：スタッフのレベルアップ講習会
講師 田中 よね 先生
(スリーエーネットワーク社)
24名受講 (NPOセンター)



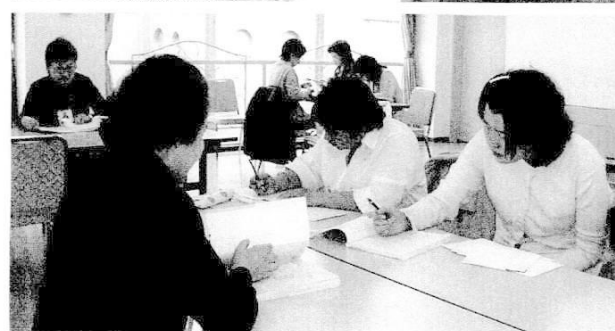
月/日 活動内容

3/12 写真展：東葛まちづくり交流会 (東京理科大)

3/20 校外学習：日本語教室「まちなか体験授業」
江戸東京博物館～浅草へ
33名参加



毎週 日本語教室：日曜・平日コース



毎月 運営委員会



隔月 会員向け「ミニ通信」発行

適宜 ホームページに行事案内、行事報告など掲載

◆ 協会案内 ◆ 私たちとっしょに国際交流しましょう。どなたでも気軽に参加できます。
お待ちしております。

【年会費】個人会員 2,000 円 家族会員 3,000 円(家族何人でも) 賛助会員(1口)10,000 円 学生会員 1,000 円
野田市国際交流協会 〒278-8550 千葉県野田市鶴奉7-1 野田市役所 企画調整課内
TEL: 04-7123-1065 FAX: 04-7122-1557 URL: <http://www.nianoda.com>